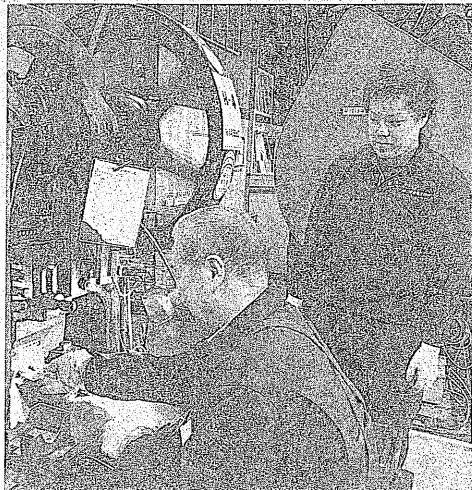


消える GDP 22兆円 大廃業時代

2017年春、大阪府で金属プレス加工を手がける三栄金属製作所の山下裕司社長(59)は、同業の三晃工業(大阪府東大阪市)の老社長に打ち明けられた。「会社閉めよう思っているや」。理由は後継者難。三晃が製造するちようつがいは大手のトラックや住設機器に使われる。サプライチェーンへの打撃を恐れる顧

弱るサプライチェーン



三栄金属製作所は廃業企業の事業を引き継いだ(大阪府東大阪市)

大企業にも責任

客からは「供給はぜひ続けてほしい」と要望が来た。熟慮の末、三栄の山下社長は17年11月末に廃業した三晃の事業を引き継いだ。工場長には27歳の若手を抜

町工場が生き延びる道はない」と語る。後継者難による中小企業の相次ぐ廃業が日本のサプライチェーンを弱体化させるとの懸念が強まっている。末端の下請けなどが担ってきた部品の製造・加工の現場では経営者と職人の高齢化が進み、引退で廃業を決定するケースも多い。

物流も危うく

客からは「供給はぜひ続けてほしい」と要望が来た。熟慮の末、三栄の山下社長は17年11月末に廃業した三晃の事業を引き継いだ。工場長には27歳の若手を抜

栄の酒井裕志元社長(68)は一時廃業を検討したが、荷主の関西ペイントなどが奔走し譲渡先を見つけた。それができた。栄は関西ペイントの塗料を道内の問屋などに運送。他の製品はトヨタ自動車の工場などにも運んでいた。危険物の運送ノウハウや製品を保管する倉庫の管理などを担当する仕事はサプライチェーンの重要な一部。「廃業すれば道内の供給網は寸断していた」と関係者は漏らす。

目が行き届かず

経済産業省幹部は1月、経団連を訪れ、大企業主導で事業承継問題に取り組む重要性を説いた。だが経団連側の反応は鈍く、「大企業が気づかない間にサプライチェーンにとって重要な中小が廃業したり、外資に買収されたりしているかもしれない」と警戒を強める。

自動車など製造業では1次下請けや2次下請けの後継者問題に関心を払うこと、大廃業時代の流れを押しとどめることはできない。

「サプライチェーンの最上位にいる大手の対応は不十分だ」。取材に応じた各地の中小経営者は口々に語る。材料費や人件費が上がっても、大手の圧力で製品価格に転嫁できず、中